



2018 年度（平成 30 年度・第 4 期）

事業報告書

1. 2018 年度を振り返って
2. 2018 年度 事業報告書
 - ・ 全体概要および事業内容補足事項
 - ・ 運営に関する事項
3. 2018 年度 活動計算書
4. 2018 年度 貸借対照表
5. 2018 年度 財務諸表の注記
6. 2018 年度 財産目録
7. 監査報告書

認定特定非営利活動法人ポケットサポート

1. 2018 年度を振り返って

2018 年度は支援者同士や当事者同士が「顔の見える・わかる」関係を作っていきたいとの思いで事業を進め「つながり」の中で、実践していった1年となりました。このスローガンは元々、今年度の備前県民局との協働事業から生まれたものです。

7月の西日本豪雨災害では、私どもと関わりのあるご家族が被災されたことや、周囲でもたくさんの方が被害に遭われました。心よりお見舞いを申し上げますと共に、1日も早い復興をお祈りしています。子どもが病気になることも、このような大きな災害に見舞われることも、困難というのはいつ誰に降りかかってくるかわからないものです。その中で大切なことは人と人との「顔の見える・わかる」関係での「つながり」だと感じています。

協働事業によって多くの地域に出向き子どもたちの思いや支援の必要性を伝え、多く関係者の方々とつながることができました。そして、その先にいる子どもたちやご家族との「つながり」も生まれました。岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援業務においても、2つの医療機関の小児病棟で子どもたちやご家族と出会い、病院の主治医の先生から当法人を案内していただいたり、以前から入退院を繰り返していた子たちが復学した後、活動に参加してくれたりするなど、培ってきた「つながり」の中で、新たな関係づくりも増えてきました。

夏には、日本郵便年賀寄附金とクラウドファンディングにより、車椅子の子どもたちも利用できるバリアフリー化を行うことができました。豪雨災害の直後ということで工事自体が難航や、法改正により昇降機の準備ができないといったハプニングの中、子どもたちの夏休み中に完成しました。活動している中で、なにより嬉しい瞬間は「ポケットサポートがあって良かった。」「ここにくると自然とやる気が出る」と言ってくれる、子どもたちやご家族の声です。その声は僕らを勇気付け、

前に進ませてくれる大きな力となっています。

病気を抱えながら生活を送っていると「自分一人がなんでこんな思いをしなければならないんだ」という孤独感や「世の中から置いていかれてるんじゃないだろうか」といった孤立感に苛まれます。そんなとき、自分を理解してくれる人や支えてくれる人、自信を持てるように支援してくれる人、一人一人の存在が「ひとりじゃないんだ」という思いをもたせてくれます。

支援拠点である事務所の「ポケットスペース」では、学生ボランティアや看護師の配置、当事者同士によるピアサポートのできる体制により、子どもたちやご家族が安心して過ごし、話ができ、学び、「ひとりじゃないんだ」と思える、そういった場所になっていきました。支援の関わりの中では、病気の自分を少し脇に置いておいて本来の「子ども(自分)らしい時間」を過ごすことのできる環境づくりを徹底しています。「自分でもできる」そんな、ここで得た小さな自信がやがて、子どもたちやご家族の次への一步を踏み出す原動力や、生きる力につながっていくことを願って日々、支援活動を行っていききたいと思います。

2018年2月に主催したシンポジウムから4ヶ月後、6月8日に岡山県教育庁特別支援教育課に全国でも珍しい「岡山県長期療養児教育サポート相談窓口」が誕生し、その中の専門家チームへ委嘱されることとなりました。

2018年9月に文部科学省からの通知により遠隔授業（自分の在籍している学校の授業を病気療養中の場所とインターネットを利用し同時双方向で結ぶもの）が学校の出席単位として認められるようになりました。しかしながら、現行の制度で認められている長期入院中の高校生への遠隔授業はハードルが高くとても困難な状況ですが、サポート相談窓口にかかってきた電話から始まった遠隔授業に、私たちも一緒に参画させていただくことになり、医療機関や学校、教育委員会などと連携し、ICTプロデューサーを中心に約2ヶ月間、力を惜しんで取り組みました。先日、その当該生徒さんご家族から、遠隔授業が出席単位と

して認められ、無事に進級できたとの報告をいただき、スタッフ一同、心より喜びを感じる出来事となりました。その他、関わっている子どもたちはみんな進級できたり、進学先や就職先が決まるなど、それぞれの春を謳歌しています。

岡山県教育委員会による「第3次岡山県特別支援教育推進プラン」の中に、「・・・ICT 機器の活用により在籍校と入院している児童生徒がネットワークでつながることができる学習支援等の環境整備について調査研究を行います。また入退院後の継続した支援体制の構築・・・」と書かれている箇所があります。ICTでの学習支援の取り組みがその発展として、今年度岡山大学と早島支援学校などを行う遠隔授業の調査研究や、今まで行ってきた入退院後の支援という、私たちが積み重ねてきたことが、岡山県教育委員会のプランと重なることとなりました。言い換えれば、これまでの支援活動の頑張りが認められた結果とも思います。

交流イベント活動では学生ボランティアたちも企画や運営に携わり大いに活躍してくれました。夏祭りにはじまり、芸術の秋・スポーツの秋の会、冬には恒例となったクリスマス会ではNPO法人チャリティーサンタやノートルダム清心女子大学のハンドベル部の演奏など他団体とのコラボレーションも行われています。以前から関わりのある子どもが成長して高校生となり、当日の運営スタッフとして関わったり、ボランティアのOB・OGたちも駆けつけてくれたりと、ポケットサポートで出会い成長していった仲間がまた集い、新しく出会った子どもたちにも力を発揮してくれる場となったことは大きな喜びです。また、子どもたちとの体験プログラムだけでなく、保護者の方々の座談会の開催もスタンダードとなり、「支える人たちを支える」という私たちの思いが形となった年となりました。

また、2018年度は体制づくりにも力を入れてきました。事務局スタッフや周囲の方々の力添えや協力によって、法人設立以来掲げていた、「認定NPO法人の取得」、「岡山市小児慢性特定疾病

児童等相互交流支援業務の受託」という2つの大きな目標を達成することができました。さらに、年度の最終には岡山県初の「グッドガバナンス認証」を得るという嬉しい知らせも舞い込んできました。全てはスタッフ、ボランティア、ポケットサポートの活動を様々な面から支えてくれる皆様の力の賜物です。

今年度も岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援業務が継続となり、当法人の支援拠点である事務所、岡山済生会総合病院、国立岡山医療センター、それぞれで週1回ずつの活動が決まっています。恒例の季節ごとの交流支援イベントに加え、講演会や研修会なども行っています。また、新たに大学や支援学校などとの連携や協力も始まる予定となっています。健全な運営を心がけ、活動を維持・発展していけるようなファンディング（資金調達）にも力を入れていきたいと考えています。様々な活動をスタッフやボランティアら皆としっかり話し合いながら、子どもたちの未来に繋がるよう、力を合わせて進めていく所存です。

2019年5月より平成が終わり令和元年となりました、この1年も変わらず、病気による困難を抱える子どもたちを支える支援団体として、認定NPO法人ポケットサポートの応援を引き続き、お願いいたします。

代表理事 三好 祐也

2. 2018 年度（平成 30 年度・第 4 期）事業報告

（1）病弱児の身体的精神的状態に合わせた学習復学支援事業

事業名	事業内容	区分	支出	日時・場所
個別学習支援	自宅療養中や復学初期の子どもに対しての学習サポート	自主	43,552	別紙参照
双方向WEB学習支援	ICT 機器や WEB を活用した学習支援	助成	1,412,007	別紙参照
VR 体験学習	病気や身体的な障害により体験できなかったことを、仮想現実で体験	助成		別紙参照
ボランティア育成	学習支援及び相互交流支援を行う人材育成、ボランティアリーダー育成	助成	1,479,303	別紙参照
小計			2,934,862	

（2）病弱児同士の交流や集団での学習活動支援事業

事業名	事業内容	区分	支出	日時・場所
ポケットスペース運営	利用者の環境に応じた相互交流、ピアサポート相談、学習支援を実施	受託	2,263,632	別紙参照
事務所バリアフリー化	活動拠点（事務所）施設整備事業	補助・自主	4,625,812	別紙参照
交流イベント	季節に応じた交流イベントの開催	助成	408,258	別紙参照
体験学習	ボランティアらと共に学ぶ交流体験学習	助成	296,016	別紙参照
きょうだい・家族ケア	当事者同士の語り合いによるピアサポート、自分らしい家族形成支援	助成	561,689	別紙参照
小計			8,155,407	

（3）病弱児への支援に関する啓発・講演活動及び講師派遣事業

事業名	事業内容	区分	支出	日時・場所
講師派遣事業	大学等に派遣し病弱児支援について広報、周知活動	謝金	22,282	別紙参照
副島先生講演会	病弱児の教育や療養環境についての講演会	助成	ボランティア育成と合算	別紙参照
慢性疾病を抱える若者の就労啓発	病弱児への就労等に対する意識向上、病弱若年層が働ける環境づくり	助成	774,966	別紙参照
病弱児を支える地域支援ネットワーク作り	課題や現状を地域の支援者が共有、安心して過ごせる地域基盤づくり	補助	1,449,167	別紙参照
小計			2,246,415	

個別学習支援、双方向WEB学習支援、VR体験学習



▲支援拠点での個別学習支援風景



▲双方向WEB学習支援用ICT機器

【個別学習支援】

- ・年間を通じて18回実施
- ・場所は支援拠点または自宅等
- ・自宅治療中などに自宅へ訪問して学習をしたり、定期テスト前に試験勉強をするなど様々なニーズに合わせて学習支援員が対応

【双方向WEB学習支援】

(ベネッセこども基金助成事業)

- ・ノートパソコンや、WEBカメラを活用してインターネット通信による映像と音声の中継
- ・放課後に学習支援員と中継を結んで、体調に配慮しながら定期試験の勉強や学習空白を補う
- ・年間を通じて随時対応

【VR（仮想現実）体験学習】

- ・360度撮影できるカメラとVRゴーグルを使って移動困難な遠隔地にある観光地散策やアトラクション、花火大会などを仮想体験

ボランティア育成(新規ボランティア研修、フォローアップ研修)

■新規ボランティア説明会および初回研修

- ・開催日：2018年5月20日、2019年3月10日
- ・大学窓口を通じて学生ボランティアを募集
- ・説明会及び初回研修を受講後に活動開始

■フォローアップ研修

- ・開催日：2018年4月14日、2019年3月10日
 - ・外部講師による感染症対策、心理的ケア研修等
- ※別途、実践研修として交流イベントを実施



▲新規ボランティア説明会および初回研修風景

事務所バリアフリー化

- ・改修工事時期：2018年6月～8月
 - ・日本郵便年賀寄附金助成およびクラウドファンディングを実施して工事資金を調達
 - ・改修工事総額：4,338,036円
 - ・日本郵便年賀寄附金額：3,425,337円
 - ・施工：株式会社ネストコーポレーション岡山
- ・車椅子を利用する子どもが夏休みの宿題や、慢性疾病を抱える若者が就労体験できる施設として有効活用



▲改修後の事務所（支援拠点）玄関風景



①既存の階段と花壇を解体撤去
スッキリとした姿になりました

②新しい階段の組み上げと
昇降機設置スペースの確保

③数回に分けてコンクリートの
流し込みが行われました



⑥階段にタイルが貼られ
新しい活動拠点の玄関風景に！

⑤いよいよ車椅子用昇降機設置！
皆様のご支援で購入できました

④階段部分のコンクリート打設終了
次はポケサボカラーのタイル貼り



慢性疾病を抱える子どもの相互交流を支援する「ポケットスペース」

毎週の支援拠点での活動には年間述べ 71 人の子どもやご家族が参加。2 施設の小児病棟でも年間述べ 207 人の子ども・保護者が利用した。

知育ゲーム交流や、テスト勉強、長期療養中の学習空白を埋め、ピアサポート相談として生活の悩みなど、多彩な活動の場となった。

研修や講習会を受けた学生ボランティアたちが活躍する等、支援従事者は述べ 337 人となり、活動前の問診チェックや、支援拠点では看護師の配置や感染症対策など安全な場の提供を行うことを心がけた。



岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援業務

交流イベント、体験学習

季節ごとに行う交流会や体験学習は、スタッフやボランティアを中心に企画・運営し、恒例の「夏祭り」「クリスマス会」に加え「夏休み宿題やつつけ隊」「スポーツの秋・芸術の秋」や「科学実験教室」など今年度は盛りだくさんの内容で開催。他 NPO 法人や、玉野市の高校、大学のサークル等との連携やコラボレーションも行った。

(1) 春イベント：参加者 13 名

日時：4 月 28 日

会場：きらめきプラザ

(2) 夏祭り交流会：参加者 13 名

日時：8 月 19 日

会場：きらめきプラザ

(3) 秋イベント：参加者 16 名

日時：11 月 4 日

会場：きらめきプラザ

(4) クリスマス会：参加者 19 名

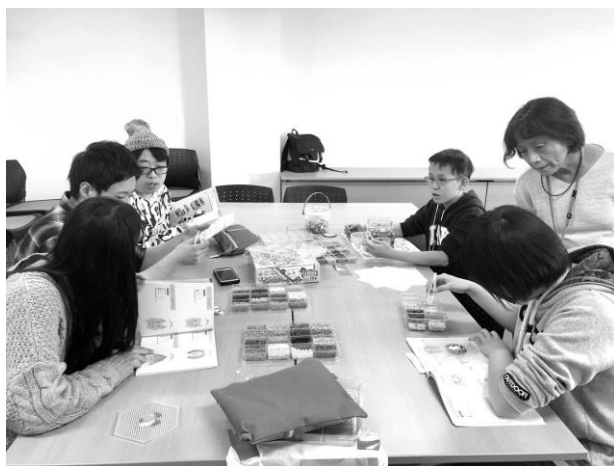
日時：12 月 22 日

会場：きらめきプラザ

(5) 科学実験交流：参加者 21 名

日時：3 月 3 日

会場：きらめきプラザ



▲秋イベントの様子（アイロンビーズ）



▲クリスマス会（サンタさんと一緒に集合写真）

きょうだい・家族ケア

保護者の「保護者だけで生活の悩みを話せる場所があったら良い」といった声からはじまった「ほっとスペース」を開催した。

交流イベントに合わせて、同じ施設の別室で行う保護者座談会は、毎回とても好評で当団体のスタンダードとなった。交流イベントにはきょうだいの参加も可能で、小さいお子さんの場合には保護者の方と過ごすこともできる場ともなった。



▲クリスマスリースづくりの様子

講師派遣事業

2018年度は、年間16回（うち、大学や高等学校、中学校で6件）の講演を行う。テーマは様々で、病気の子どもたちが抱えている思い、教育支援について、代表の三好が当事者としての自立の話などを話した。また、県外からも多数の講師派遣依頼を頂き、愛知や三重、東京、小児科医会、学会等で講演を行った。

【2018年度実績】

- ① 4月8日：第28回日本外来小児科学会
春季カンファレンスシンポジウム

「子ども支援・子育て支援」

場所：東京国際フォーラム

- ② 4月16日：岡山大学教育学部 約60名
「病弱者心理・生理・病理学概論」

- ③ 5月29日：岡山大学教育学部 約150名
「発達障害教育概論」

「発達障害教育概論」（6月1日実施）

- ④ 9月2日：第75回三重県小児保健学会
場所：三重県総合文化センター

- ⑤ 9月20日：企業研修 社会課題を考える
場所：スウィッチワークス 約20名

- ⑥ 10月17日：「人権連続講座」 62名
場所：水島公民館

- ⑦ 10月23日：岡山県立真庭高等学校（落合校地）
特別講義 18名

- ⑧ 11月10日：岡山市立桑田中学校 約250名
「病気の子どもたちの教育について考える」

- ⑨ 11月16日：第2回チャレンジ研究会
「病気の子どもたちの現状とポケットサポートの取り組み」

場所：エイドネット事業本部 約10名

- ⑩ 11月18日：日本小児科医会中国四国ブロック
協議会 特別講演 約40名

場所：岡山コンベンションセンター

- ⑪ 11月24日：灘崎公民館 約10名
講演「ひと、人、講座」

- ⑫ 12月11日：武田薬品工業 約300名
「患者さんを支えるNPO活動から見える日本の社会、医療現場の課題」

- ⑬ 1月25日：岡山大学保健学科 約25名
講義「医療人のための教養」

- ⑭ 1月26日：愛知県病弱児療育研究会 約70名
場所：愛知県医師会館

- ⑮ 2月9日：岡山城東ライオンズクラブ
認証20周年記念式典 講演 約40名
場所：西大寺グランドホテル

- ⑯ 2月26日：玉野渋川ライオンズ 約40名
場所：由加温泉ホテル山桃花

副島先生講演会

毎年恒例となった「赤鼻のセンセイ」こと、昭和大学副島賢和先生の講演会を岡山大学の創立五十周年記念館（金光ホール）にて開催。当日は感情にスポットを当てたテーマで247人の方々が聴講した。その他、支援者やボランティアらスタッフに向けた講習の場も開催した。

開催日時：平成30年6月10日（日）

会 場：岡山大学創立五十周年記念館



慢性疾病を抱える若者の就労啓発

障害者雇用などの問題もある中で、まだまだ進んでいない慢性疾病など病気を抱える若者たちの就労問題について、日本財団の助成事業で啓発のイベントを開催した。

難病の若者の就労移行を進めた事例の話や、岡山県で初めての難病の若者が在宅で行った就労移行支援、その当事者の話など、それぞれの立場からの話により、これからの病気を抱える若者たちの就労のあり方について多くの方と一緒に考える場となった。「そこに行く」という物理的な障害を乗り越えるため Youtube 配信も実施した。



病弱児を支える地域支援ネットワーク作り

備前県民局との協働事業で、支援者同士が「顔の見える・わかる」関係でつながることを目的とし、玉野市、瀬戸内市、備前市でキャラバン講演会という形で当事者や大学の先生方による講演や、ワークショップを取り入れたオーダーメイドの会を開催した。医療・教育・福祉・子どもの支援団体や、当事者家族とのつながりが生まれ、事業で作成したハンドブックは県下に5,800部を配布した。



運営に関する事項

(1) 総会

通常総会	開催日	2018 年 6 月 16 日
	場所	THE MAGRITTE（岡山市北区丸の内 1-5-8）
	出席	社員総数 31 名のうち 29 名出席（本人出席 10 名、表決委任状 19 名）
	決議事項	・ 2017 年度（平成 29 年度・第 3 期）事業報告及び決算報告について

(2) 理事会

第 1 回	開催日	2018 年 4 月 15 日
	場所	ポケットサポート事務所（岡山市北区奥田本町 22-2）
	出席	4 名（本人出席 4 名、委任状 0 名、欠席 0 名）
	決議事項	・ 文書保存規程について ・ 会員規程について
第 2 回	開催日	2018 年 5 月 19 日
	場所	ポケットサポート事務所（岡山市北区奥田本町 22-2）
	出席	4 名（本人出席 4 名、委任状 0 名、欠席 0 名）
	決議事項	・ 平成 30 年度事業計画について ・ 平成 30 年度活動予算について ・ 平成 29 年度決算報告について
第 3 回	開催日	2018 年 9 月 6 日
	場所	ポケットサポート事務所（岡山市北区奥田本町 22-2）
	出席	4 名（本人出席 4 名、委任状 0 名、欠席 0 名）
	決議事項	・ 役員解任について
第 4 回	開催日	2018 年 10 月 27 日
	場所	ポケットサポート事務所（岡山市北区奥田本町 22-2）
	出席	3 名（本人出席 3 名、委任状 0 名、欠席 0 名）
	決議事項	・ ビジョンシートについて ・ 平成 31 年度助成金申請について ・ 理事との利益相反取引に関する確認
第 5 回	開催日	2019 年 2 月 24 日
	場所	ポケットサポート事務所（岡山市北区奥田本町 22-2）
	出席	3 名（本人出席 3 名、委任状 0 名、欠席 0 名）
	決議事項	・ 謝金規程について
第 6 回	開催日	2019 年 3 月 22 日
	場所	ポケットサポート事務所（岡山市北区奥田本町 22-2）
	出席	3 名（本人出席 3 名、委任状 0 名、欠席 0 名）
	決議事項	・ 監事解任と選任について ・ 役員報酬について

(3) 補助金・助成金

補助・助成機関名（順不同）	内 容	金 額
備前県民局協働事業	病気を抱える子どもの地域支援ネットワークづくり事業	1,435,008
一般財団法人橋本財団	長期治療を必要とする家族へのレスパイトケア	550,000
公益財団法人ベネッセこども基金	自宅療養中の病弱児と学習支援者を双方向Webで結ぶ学習支援事業	1,650,400
公益財団法人福武教育文化振興財団	病気を抱える子どもと学習支援ボランティアが共に学ぶ体験学習	300,000
公益財団法人キリン福祉財団	病気による困難を抱えた子どもの学び支援事業	300,000
特定非営利活動法人市民社会創造ファンド	学習支援ボランティアリーダー養成および地域連携支援プロジェクト	1,370,000
公益財団法人日本財団	慢性疾病を抱える若者の就労啓発	570,000
日本郵便株式会社	事務所での障害者交流および雇用のためのバリアフリー改修事業	3,425,337

(4) 受託事業

委託元	内 容	金 額
岡山市	岡山市小児慢性特定疾病児童等相互交流支援業務	1,800,000

(5) 外部委員会への参加など

委員会等名（順不同）	委員名
SDGs ネットワークおかやま 副会長	三好 祐也
岡山県特別支援教育専門家チーム員	三好 祐也
岡山県院内学級連絡協議会	三好 祐也